患者さんがいる限り、どこまでも

沼田病院（群馬県）のへき地医療

巡回診療車の内部。
手前が診察スペース、
奥の椅子が待合に使われるスペースで、
患者さんたちの会話に花が咲く

巡回診療車の中で診察する前村院長（右）と小池看護師（左）。前村院長の趣味は音楽でJ-POPからクラシックまで幅広く、学生時代はバンド活動もしていた。一方、小池看護師の最近のお気に入りはポケモン・ゴー。同じ趣味の友だちも増えたという

雪道を進む診療車。新潟県と接する県北部では2mの積雪を記録することもあり、雪に慣れている患者さんでも数10メートル先の診療車までたどり着けず、逆に医師と看護師がカバンと薬を持って自宅へ出向いたことも

「何が何でも」という使命感

「“何があっても来るしかない”そんな使命感を覚えた光景があります」と話すのは、沼田病院（群馬県沼田市）の前村道生（みちお）院長です。ある大雪の日、雪をかき分けながら向かった訪問先のことです。到着予定の時間をかなり過ぎていたにもかかわらず、しんしんと雪が降り続く中、傘をさしながら待ち続けてくれた患者さんたちの姿が、前村院長の脳裏に焼き付いています。

沼田病院が位置する保健医療圏（病床整備のために各都道府県が定める地域区分）は群馬県の北部に位置し、面積は県域の4分の1以上を占めていますが、人口は群馬県の総人口の5%もありません。特に新潟県との県境に近い山間部では10人程度が暮らす集落が点在しており、交通手段を持たない単身や夫婦だけの高齢者も多く暮らしています。沼田病院は48年前から診療車による巡回診療を行い、山間部に住む人たちの生活を医療の面から支えています。

地域に欠かせない医療

現在、巡回診療車は1か月に1回のペースで4つのコースを巡回しています。各コースの停留所は4～6か所（合計で20か所程度）あり、中には往復で90㎞走るコースもあるので、1日がかりの大仕事です。巡回診療を行う医師と看護師の2名はコースごとに固定（他に運転手1名）しているので、患者さんは顔なじみばかりです。前村院長自身もそんな巡回診療の担当医のひとりで、「カルテを見なくても病歴や状態は覚えています」と語ります。前村院長とチームを組む小池京子看護師も「患者さん同士も顔なじみで、診療車の中で互いに元気を分け合っているようです」と笑顔で話します。

「私たちには、特に変わった医療をしているという意識はありません」と前村院長。巡回診療は沼田病院にとって当たり前の業務で、地域にとってなくてはならない医療です。

巡回診療車とチーム。入澤喜久夫さん（左）は何と親子二代にわたって診療車の運転手（親子で31年目）で、天候・悪路に関係なく医師と看護師を患者さんの元に送り届けている。「父のころからの患者さんもいて、何としても行ってあげたい」と入澤さん

第18回人事院総裁賞を受賞

人事院総裁賞は、国民の公務に対する信頼を高めることに寄与した個人やグループに与えられる賞。無医地域での巡回診療が医療福祉の向上に貢献したとして認められ、沼田病院は2005年に同賞を受賞している。

沼田病院（群馬県沼田市） 許可病床数 179床

山間部が多い群馬県北部の利根沼田地区に位置する地域医療の要。がん診療連携、災害医療の拠点病院で、広大な無医地区をカバーするへき地医療拠点病院でもあり、地域に貢献している。